

# 同窓

ICHINOMIYA NISHI

# 会報



愛知県立  
一宮西高等学校

## 第32号

2017年7月7日発行

発行：一宮西高校同窓会事務局  
一宮市萩原町串字河田1番地 〒491-0376  
TEL (0586) 68-1191 FAX (0586) 69-0196  
E-mail dosokai@ichinomiyanishi-h.aichi-c.ed.jp







## 還暦を迎えての同窓会

同窓会副会長 伊藤 恒二郎

暑中お見舞い申し上げます。同窓会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会活動にご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私は八回生の昭和三十一年一月生まれで今年六十一歳になりました。

陰陽五行説で十干十二支の組み合わせが六十年で一回りして元の干支に戻ることから、暦が還るという意味で還暦と呼ばれています。この年齢に達すると、一族が集まって「生まれ直すこと」を祝い、赤ちゃんの時に着ていた様な赤い頭巾、ちゃんちゃんこ、座布団を贈って、無病息災を祝福します。赤は生命の象徴としての太陽の色で、魔除け・厄除けの色とされています。

織田信長の名言で「人間五十年下天のうちをくらぶれば夢幻のごとなり、一度生を受け滅せぬもののあるべきか」と四〇〇年前の戦国時代に言っていますが、今では平均寿命が八十歳を超える時代になってますね。十有五にして学に志す、三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知る、六十にして耳従う、七十にして心の欲する所に従って、矩を踰えず、と言いますが同窓生の皆さんはどの年代に当てはまりますか?そしてどのように過ごしたいと思ってますか?

過去を振り返れば「夢幻のよう」でもあったし、未来を見れば自分の力が大体どんなものだったかが、はっきりしてくるし、病氣

や体力の衰え記憶力の衰えを感じて、自分を知りながら生きてゆかなければならないので、大きかったり重い運命を背負った人は、体など構わずに突き進むしかなくなるだろうし、そうでない人は衰えを計算して、未来を見なければいけなくなると言う年齢になってしまいました。六十にして耳従うとは「世間の噂に惑わされることなく、何事にも素直に耳を傾けて真実を理解する事が出来る」とありますが私はまだまだです。

若い人には六十歳はどのように映るのでしょうか。まだ元気な偉い人、妙に自信を無くして老けこんでる人、悟ったような人、自分の年を理解してしっかり歩んでいる人……こんな感じなんではないでしょうか?どうなのでしょうね。

私の場合は仕事の事、子供の事、病気の事、年金の事……まだまだ天命を悟ったり、耳従う境地には至っていません。本当は私のような年代の人も若者を見て、未来のために出来ることを一生懸命頑張らないとダメな年なのかも知れませんね。これからは平均年齢までの二十年をどのように生きていくかをしっかりと考えるのが還暦という年齢だと思うます。これからもっともっと楽しく生きていく時間にしたいと思っております。

最後になりましたが、会員の皆様には同窓会活動につきまして、何とぞ一層のご指導、ご協力をお願い致しますとともに、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げてご挨拶とさせていただきます。





## 昨年度の総会報告

平成二十八年度の総会は、昨年八月六日（土）午後四時より、尾張一宮駅前ビル七階シビックホールで行われました。

十一回生・三十一回生を中心として、総勢百二十名の方々に参加していただきました。ご多忙にもかかわらず、歴代の校長先生をはじめ、懐かしい旧正副担任の先生方、現職員の先生方にもご出席いただきました。

総会に先立ち、同窓会50周年を記念して本校の第2回卒業生でもある薬師寺の加藤朝胤先生に「お釈迦様の教え」と題してご講演をいただきました。

総会では、平成二十七年度の事業報告・会計報告、役員改選、平成二十八年度の事業計画・予算案の審議と、滞りなく議事を進めることができました。総会でもご報告させていただいたように、同窓会費及び同窓会報郵送料カンパでは多くの方にご協力いただき、重ねてお礼申し上げます。

懇親会は、学年同窓会を担当した十一回生・三十一回生に新会員の五十回生を加え、若々しい雰囲気の中で盛り上がりました。各テーブルでは、昔話が花が咲き、時が経つのも忘れて旧交を温めることができました。懇親会を

締めくくる校歌斉唱も恒例になり、名残りが尽きないままお開きとなりました。

本年度は十二回生と三十二回生の学年同窓会を開催させていただきます。多数の方が参加していただければと考えております。なお、担当学年にかかわらず、クラス会や部活動のOB会の場としても同窓会総会を大いに活用していただけたら幸いです。

今年度の総会に、是非皆様お誘い合わせの上、気軽に参加していただきますようお願い申し上げます。





## 東京支部会の報告

15回生 遠藤 和彦

2016年度の二宮西高校同窓会東京支部会は、12月3日（土）に東京、新宿にて開かれました。本校からは水谷悟先生と私が出席し、20名ほどの方に参加していただきました。

新宿西口交番前の「西高の校章」の下に集い、1次会の会場へと向かいました。西高時代の懐かしい話や、近況報告で盛り上がり、あつという間の2時間でした。会場を移しての2次会も、大変盛り上がったものとなりました。今回は、わざわざ関西圏から参加していただいた方も見えましたし、東京の大学に通っている大学生にも参加していただきました。実に幅広い年齢層の方が集まり、情報交換にも花が咲きました。

これからも関東圏在住、または東京に立ち寄られる皆様のご参加で東京支部会を盛り上げていただきたいと思えます。

## 一生勉強、一生青春

花井 翔

この度の人事異動により、三好高校に転勤となりました。初

めての転勤で地区も変わり、新鮮な日々を過ごしています。それでも「西高では〇〇だった」と振り返る場面も多々あり、西高での生活を懐かしく思います。教員として採用され、第一歩を踏み出した最初の学校が二宮西高校でした。初めは自分のことで手一杯であり、授業も部活も毎日を過ごすのに必死でした。しかし数週間経ったある日、業後にふと教室に訪れたときに生徒が集まっていました。「どうしたの」と声をかけると、「この数学の問題がどうしてもわからないんです」と。解説をしてあげると「やっとわかった、先生ありがとう！」そのとき、私の中で何かが変わりました。目の前にいるのは生徒であり、生徒を育てるのが教員であるということ。当たり前前のごではありますが、これだけ生徒が頑張っている姿を見て、自分ももっと頑張らないといけないと再認識させられました。それから私は朝や業後にも教室へ出向き、生徒との関わり合いを大切にし、「生徒のためにできることは何か」を念頭に置いて生活していました。

究のために全国の大学入試問題を解き、また生徒へ進路情報を伝えるために各大学の特色調べや大学訪問をするなど、まるで受験生のように忙しい毎日でした。でも生徒の表情や努力している姿を見ると、私自身も感化され、モチベーションは高いままで最後までやりきることができました。年数が経つにつれ、学習指導も進学指導も幅広い視点で考えることができるようになった気がします。

「生徒のため」と動いていた毎日でしたが、今となってはそれが自分にとつての成長のきっかけだったように思えます。先生方の優しさや気遣い、また西高の生徒の素直さに助けられ、「何でもいいからとにかく吸収しよう」そう思える日々がそこにはありました。授業・部活動・学校行事すべて盛んであるのが西高であり、西高の生徒が頑張るから、私も頑張れたと思います。学習指導・進学指導・生徒指導、学んだことすべてが自分の経験として活きていると転勤して度々感じるようになりました。一生懸命やっていた西高の日々そのものが、私自身の教員としての財産です。これだけやりがいのある学校で働くことができ、私は幸せでした。感謝しています。

また、3年生の担任も経験させていただきました。初めてのときは学習指導も進学指導も経験が浅く、補習や講座の教材研





「二期一会」  
ここで出会えたのも縁です。  
人との関わりを大切に。

「全力」  
おもいっきり取り組みましょ  
う。何かに夢中になれることは  
素敵なことです。

「生勉強、一生青春」  
一生懸命やったことは、自分の  
糧となります。謙虚に、常に学  
ぶ姿勢を。自身の成長こそ青春  
の日々そのものです。

離任式でも話したこの言葉と、  
この一宮西高校で培った財産を心  
の支えとし、これからも精進して  
いきたいと思えます。最後に、私  
自身を育ててくれた生徒や卒業  
生たち、そして西高の中で出会っ  
た皆様、本当にお世話になりま  
した。今後の一宮西高校の益々の  
発展と活躍を祈っています。

西高に、  
西高生に感謝

川口 純

本年度の人事異動で、津島北  
高校に異動となりました。西高  
には7年間お世話になりました。  
た。振り返ってみるとあつという  
間の7年間でしたが、赴任した  
当時に生後4ヶ月であった長男  
が、小学校に入学したことを考

えると非常に長い間お世話になっ  
たのだな、と感慨深いものがあ  
ります。

西高では7年間とも持ち上が  
りで1年生から担任をもたせて  
いただきました。担任した生徒  
たちによく言っていたことは、「自  
信を持ちなさい」「今のままの自  
分では届かない目標を持ちなさ  
い」でした。それが西高での自  
分のモットーであったと思います。  
受験校を決定する検討会でも、  
実力的には苦しくても何とかこ  
のままチャレンジさせてあげたい、  
と言ったことも多かったです。目  
標を高く持ち、それに向けて二

生懸命頑張る姿や合格発表を見  
て嬉しそうに報告してくれる姿、  
また力及ばず合格に届かなくて  
も、来年はもっと上を目指しま  
すと力強くいつてくれた姿、すべ  
てが宝物です。

西高は自分にとって教員とし  
て成長する機会を与えてくれた  
学校でした。教員として一生目  
標にしていきたいと思わせてくれ  
る先生方と出会うことができま  
した。生徒の立場からは見えな  
い膨大な校務をこなしながらも、  
生徒に対して忙しさを見せずに  
まっすぐ向き合う姿から、自分  
自身ももっとやれるはずと頑張

平成29年度  
同窓会総会のお知らせ

(全日制第12回生・第32回生学年同窓会 同時開催)

日 時 8月5日(土) 午後5時より  
場 所 尾張一宮駅前ビル(i-ビル)  
会 費 5,000円(学生は3,000円)

※出欠は同封のハガキ、または  
E-mail dosokai@ichinomiyanishi-h.aichi-c.ed.jp  
でお知らせください。その他のお便りもE-mailどうぞ。  
※来年度は、第13回生・第33回生(昭和54年卒・平成11年  
卒)の学年同窓会を計画しております。  
※西高ホームページ  
<http://www.ichinomiyanishi-h.aichi-c.ed.jp/>  
も参考にしてください。  
HPの中にも、同窓会のE-mailアドレスが記されています。

ることができました。その先生方のうしろ姿を追いかけていたからこそ、新しい学校へ赴任しても自信をもつて生徒と向き合えます。また、最も刺激を受けたのはやはり西高生たちでした。決して少なくない日々の課題や予習に追われながらも、部活動や学校行事に主体的に取り組む姿や3年生になり目標の実現のために朝早くから夜遅くまで頑張っている西高生の姿から、私自身も今以上に、自身の持てる力以上に尽力しなければ、と感化されていたものでした。

西高は今年度から国際理解コースの募集も始まり、これから変わっていく面も多いと思います。しかし、熱心な先生、朝早くからお弁当を作って送り出してくれる保護者の方々、卒業生の方々が作り上げた実績、そして何よりも精一杯頑張る西高生がいる限り素晴らしい学校であり続けてくれる、きつとさらさら良い方向へと変化していくと信じています。

離れた場所で西高を見ていくことは少し寂しくもあります。が、これからの西高の発展を心より願っております。たくさん素晴らしい思い出をありがとうございます。ありがとうございました。

## 西高で過ごした時間を振り返って

渡邊 真理

この度の人事異動で二宮西高校を離れ、杏和高校へ赴任いたしました。西高では6年間勤務させていただきました。今その年月を振り返り感じるのは「忙しかったけれど、充実した6年だった」ということです。

西高生の皆さんと過ごした6年間で特に印象深かったことを二つ述べさせていただきます。

一つ目は、生徒の皆さんの「力強さ」です。私が述べるまでもなく西高生は本当に忙しいです。勉強・部活動・学校行事、全てに全力を注ぐことを要求されます。ともすれば忙殺されそのままたま流されて行きかねません。そのような日々の中であっても、自分たちなりに楽しいことを見つけ、友達と笑顔で過ごしている姿を毎日のように見ていました。そしてその姿に「遅し」と「頼もしさ」を感じたものでした。

二つ目は、自分たちに寄せられた信頼に応えようとする西高生の「誠実さ」です。授業や部活などで私たち教員が生徒の皆さんに望むことはたくさんあります。それに応えようと真摯に

努力する率直さや人柄の良さ、大人ながら学ばせていただくことも多々ありました。

「質の高い集団」というものはこういうものなのだと驚いたことを覚えていますが、今も実感しております。

このような良い思い出とともに勤務校を去ることができたことは本当に有り難いことだと思っております。それもひとえに卒業生の皆様が長い年月をかけて作り上げ、継続されてきた「西高の伝統」のおかげであると感謝しております。

最後に、一宮西高校と同窓会の益々のご発展を心よりお祈り申しあげます。

## The Course of International Studies ... Departure!

国際理解コース主任  
小川 敬子

西高のホームページを最近チェックされた皆さんは、左上に新しいバナーが付け加えられているのに気づかれたでしょうか？本年度29年度入学生から、新たに

募集が始まった「国際理解コース」です。バナーをクリックしていただくと、コースの概要が現れますので、二度ご覧になってください。コースの目標は「国際社会で活躍できる人材」を養成すること。多彩なカリキュラム、外部講師による授業や講演、国際交流事業への参加促進、さらに海外修学旅行や交換留学などによって、外国を知り、外国の人たちとじかに交流し、その一方で日本を再認識し、自分が世界のためにできることを探り、様々な人々と協力しながら諸問題を解決していける基礎力を養います。

とはいえ、このコースはまだ正式には始まってはいません。ホームページ左上の概念図をよく見ると、1年・あいちスーパースターリングリッシュハブスクール(全クラス)となっているのがわかるでしょう。実際コースに分かれるのは2年生からです。本年度入学生は今、「国際理解コースでなんだ？」と思いつながら、あるいはそんなコースのことなど何も気にとめず、授業を受けているところです。なぜ最初からコース分けをしないのか？それは、高校生活に慣れ、徐々に自分の特性を見極めつつよく考えた上で2年次からの類型選択をし、希望の進路を実現してほしい、という進学校である

西高の姿勢によるものです。なんとなく「国際」ということばに惹かれて雰囲気志望するのではなく、じっくり自己に向き合い、よく考えた上で、コースを選んでほしいと私たちは考えています。そのため、従来通り、「文系」「理系」といった類型を選ぶのは1年の秋以降。異なるのは「文系」に「文系・普通コース」と「文系・国際理解コース」の選択肢があるということです。

さらに、西高が進学校である以上、大学進学についても述べなくてはならないでしょう。「国際理解コース」が目標とするのは、名古屋大学をはじめとする旧帝大レベル、および難関私大の文系学部です。特に法学部や経済学部、総合政策学部など、現代の社会における諸問題を解決するのに欠かせない学問分野を目指す生徒には、強くこのコースを勧めたいと思います。知識や経験を得、問題意識を持ち、多様な人々とのおふれあいを通して人間として成長することにより、明確な進路意識が芽生え、入試に向かうモチベーションが当然高まっていくと考えます。西高の「国際理解コース」の大きな柱のつは「この「進路指導」にあるといえるでしょう。

さて、これを書いている私は、この4月より、「国際理解コース





主任」を仰せつかりました。そこからスタートして、このコースの目玉のつととなる海外姉妹校を探している際に私が遭遇した「異文化」を紹介して、この稿を終えたいと思います。探し始めてすぐに、友人から紹介されたオーストラリアの学校から「オンライン交流」も「生徒受け入れ」も可能という非常にありがたいお返事をいただきました。これまで海外と姉妹校提携を行った近隣の学校からは、「実際に現地に行つて飛び込み営業をしないと無理だ」とか「タイムリミットぎりぎりによろやく見つかった」あるいは「提携しようとしたらいろいろ条件が提示され、ややこしいことになった」などと聞いておりましたので、難航を予想して憂鬱になっていたところに、すんなり提携できる学校が見つかり、ほっと安心。しかしそれも束の間、1週間後に連絡をとってみると、担当者が「私はこの年末で退職をしますので、来年度以降のことは知りません」と言うではありませんか。間に入つた友人が「後任の方に引き継ぎという形ということではできませんか」ととりなしてはくれましたが、「保証のほどではない」との返事。どうもオーストラリアでは、学校全体というより、担当者個人の考えで海外との交流を行った

りしていることも多いようです。また、その担当者がおっしゃるには、「二度提携したからといって、来年も、なんて考えない方がいいですよ。基本的に単年度、と思つていたほうが安全です。」さらに、「オーストラリアは外国人がワーキングホリデーでやつてきて、まず暮らし、それから土地の人々と関係を築いていく国。二度実際にこちらにいらつしやらなければ、相手をしてくれる学校もなかなか見つからないでしょう。」とのこと。1週間前と話が違ふ、と唖然とするともに、自分の思い込みを大いに反省しました。こちらとしては、この件は「学校として」受け入れてもらったのであり、おそらくは「この先少なくともしばらくは」関係が続く、と安易に思い込んでいました。しかし、日本ならこれが「普通」ではなideしょうか。いい返事に有頂天になつていた私も甘かつたのです。が、日本の学校とであれば、ここまで二気に状況が変わるといふのはありえません。まさに異文化とのやりとりが始まつたのを実感しました。海外に住んで30年になる私の友人は、メールによく「具体的に何をしたらいいのか、教えてね。確認したいから。」と書いて寄越してきます。日本人である彼女が異文化で知らず知

らずに身につけた方法なのでしょう。私もここからのスタートです。このコースで、学び、ふれあい、体験していくことは、決して楽しいことばかりではないでしょう。しかし、そうだからこそ、このコースでしか得られないものがあるはず。西高の生徒たちがこのコースで学び、新しい西高の歴史を創つていくために、どうぞ同窓会員の皆様も、暖かくご支援ください。次は生き生きとした生徒の様子をお知らせしたいと思います。

### 同窓会費納入及び協力金のお礼

昨年度も例年通り同窓会費(年間二千円)の納入をお願いしましたところ、二百六十名の方から会費をいただくことが出来ました。同時にお願ひしました協力金とあわせて、七十二万円あまりをいただくことが出来ました。ご協力ありがとうございました。今年度も、年会費二千円とは別に、一口千円を協力金としてお願ひしたいと存じます。同封の振込用紙をご利用の上、郵便局からお振込ください。よろしくお願ひいたします。

# 学園だより

## 平成二十九年年度 高校総体体育大会の結果

- 総体尾張支部総合男子優勝
- 【陸上(女子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
第4位 100H 伊藤里奈  
第3位 5000m競歩 神谷さくら  
第5位 砲丸投 葛谷薫乃  
第5位 4×400mリレー 山本・田中・伊藤・福井
- 《高校総体尾張支部予選》  
総合5位  
第3位 200m 池田大輝  
第6位 5000m 木村将成  
優勝 3000m障害 木村将成  
第2位 三段跳 柴田晃大  
第2位 4×100mリレー 松井・柴田・本田・池田  
第3位 4×400mリレー 猪子・川口・丹羽・吉田
- 【弓道(女子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
第5位 団体 (18中/40射)
- 【弓道(男子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
優勝 団体 (25中/40射) 井口翔太
- 《高校総体尾張支部予選》  
個人 井口翔太
- 《高校総体尾張支部予選》  
第2位 団体
- 【剣道(女子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
ベスト8 団体
- 【剣道(男子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
ベスト8 団体
- 【ラグビー】  
《高校総体尾張支部予選》  
尾張 第3位
- 《第4回7人制ラグビー大会尾張支部予選》  
尾張 第3位
- 【バレーボール(女子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
尾張 第7位
- 【バレーボール(男子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
優勝  
最優秀選手 渡邊航大  
優秀選手 堀部正太郎
- 【ハンドボール(女子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
第6位
- 【卓球(男子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
優勝 個人 野牧・大悟  
《中部日本卓球選手権愛知予選》  
ブロック優勝 野牧・大悟
- 【テニス(女子)】  
《高校総体尾張支部予選》  
団体 第3位  
ブロック優勝 福田京佳  
シングルス 今塩屋  
ブロック準優勝 今塩屋  
シングルス 今塩屋  
ダブルス 福田・安田
- 【ソフトテニス(女子)】  
ベスト12 個人 秀徳・畑野組

【水泳】  
第3位 男子4000m自由形  
第3位 女子2000m自由形

### 部の合宿

【サッカー部】  
石川県小松市  
八月一日〜八月三日

【ラグビー部】  
長野県上田市  
八月六日〜八月八日

### 同窓会年度幹事

- 第五十一回生  
常任幹事 関 優奈  
年度幹事
- 一組 今田 義則・魚住 朱音
  - 二組 水谷 優作・今井 知早
  - 三組 南川浩太郎・大久保亜美
  - 四組 安藤 亮一・関 優奈
  - 五組 穂積 祐哉・坂下あさひ
  - 六組 笹辺 玲哉・稲垣 実咲
  - 七組 佐藤 大祐・吉田 紗代
  - 八組 山口 凱之・中里美優妃
  - 九組 村上 大虎・長谷川 舞

### 職員の異動

平成二十九年年度  
◇転出者 (敬称略)

- 教諭  
英語 渡邊 真理 (杏和)  
家庭 今吉由起子 (古知野)  
理科 川口 純 (津島北)  
数学 花井 翔 (三好)
- 期待講師  
理科 津田 和季 (新任・国府)

国語 田中 愛乃 (五条)  
養教 田中美寿樹 (西春)  
情報 山内 豊一 (新任・東海南)  
再任用教諭

数学 小川 康男 (木曾川)  
国語 杉原 春仁 (退職)  
国語 鈴木 健二 (退職)  
庶務部  
主事 鶴飼 遥佳 (県民生活部)

◇転入者  
教諭  
英語 西田 孝二 (犬山)  
数学 水谷 治雄 (丹羽)  
理科 佐藤 英雄 (西春)  
家庭 横井 真美 (一宮)  
養教 渡邊 祐衣 (名古屋西)  
国語 中根 彩未 (新任)

期待講師  
理科 黒木竜太郎  
実習 西村 拓哉  
再任用教諭  
英語 岩田 孝一 (一宮興道)  
数学 片岡 治 (津島東)  
国語 浅井 信洋 (杏和)

### 昨年度の同窓会活動報告

一、同窓会総会の開催  
平成二十八年八月六日(土)尾張一宮駅前ビル七階シビックホールで開催。旧・現職員、一般会員合わせて百二名の参加をいただきました。  
総会にあわせて50周年記念講演会を行いました。  
二、「同窓会報」第三十一号の発行  
平成二十八年七月七日に発行いたしました。  
三、同窓会郵送料カンパの実施  
今年度も別記のとおり実施いた

します。ご協力よろしくお願  
いいたします。  
四、東京支部会の開催  
平成二十八年十二月三日(土)  
新宿にて開催。西高からは、同窓  
生でもある水谷・遠藤先生が出席  
され、合わせて二十名ほどの参加  
がありました。

五、同窓会入会式および卒業記念  
品贈呈式  
平成二十九年三月一日(水)に  
実施されました。第五十一回生三  
百五十六名が同窓会に入会し、一  
般会員総数は一八、七百八十三名  
になりました。また、卒業生に  
は、卒業記念品として、証書筒を  
贈呈しました。

### 大学合格者数一覧

(平成二十九年年度入試)

|       |    |         |     |    |     |    |     |
|-------|----|---------|-----|----|-----|----|-----|
| 北海道   | 1  | 名古屋工業大  | 34  | 慶應 | 3   | 大徳 | 3   |
| 東北    | 1  | 名古屋重工業大 | 25  | 早稲 | 4   | 大徳 | 4   |
| 筑波    | 1  | 三賀大     | 27  | 愛知 | 98  | 大徳 | 98  |
| 東工    | 1  | 滋賀大     | 10  | 愛知 | 77  | 大徳 | 77  |
| 横浜    | 1  | 京都大     | 4   | 金城 | 30  | 大徳 | 30  |
| 富山    | 1  | 大阪大     | 3   | 山学 | 41  | 大徳 | 41  |
| 金沢    | 3  | 神戸大     | 2   | 中京 | 73  | 大徳 | 73  |
| 福井    | 3  | 奈良女大    | 1   | 南山 | 160 | 大徳 | 160 |
| 信州    | 1  | 島根大     | 1   | 藤田 | 13  | 大徳 | 13  |
| 岐阜    | 34 | 愛知県立大   | 19  | 名保 | 144 | 大徳 | 144 |
| 静岡    | 2  | 名古屋立大   | 19  | 同志 | 18  | 大徳 | 18  |
| 愛知教育大 | 29 | 国公立大合計  | 244 | 立命 | 30  | 大徳 | 30  |